

方法書に関する市長意見とこれに対する事業者の見解

市長意見	左の意見に対する事業者の見解
全般的事項	
<p>1 交通計画について 計画地周辺は現在でも自動車交通量や歩行者の通行が多い地域であることから、工事中の歩行者動線の確保について十分検討を行い、その考え方を準備書に記載すること。</p>	<p>工事期間中の歩行者ルートへの影響としては、一部のルートについて通行が制限される、工事車両出入口前で工事車両と歩行者が交錯するなどの影響が想定されます。この点を踏まえ、工事中の歩行者ルートについて、安全性・利便性を確保するための方策及び基本的な考え方を準備書に記載しました。</p>
<p>2 駐車場計画について 準備書において予測・評価する際には、駐車場の規模及び隔地駐車場の位置等を示すとともに公共交通機関の利用促進策の効果を考慮して、自動車発生交通量や走行ルート別の交通量を準備書に記載すること。</p>	<p>予測・評価においては、駐車場の規模及び隔地駐車場の位置等を設定した上で、走行ルート別の通行車両台数の設定を行いました。 なお、公共交通機関の利用促進策については、JR大阪駅方面・御堂筋線梅田駅・阪神梅田駅等を接続する東西地下道を拡幅整備するとともに、JR大阪駅や阪急梅田駅とは既存の梅田新歩道橋と連続する歩行者通路を整備し、デッキレベルのネットワーク動線を強化する予定であり、このことにより、公共交通機関の利用を促進する計画です。ただし、その効果については、定量的に設定することが難しいため、安全側の設定として、車両台数の設定においては考慮しませんでした。</p>
景観	
<p>事業計画地周辺は京阪神都市圏の主要ターミナルであることから、様々な公共交通機関で訪れる人の動線を考慮し、近景において調査及び予測地点を追加すること。</p>	<p>事業計画地は、西日本最大のターミナルである大阪駅周辺地区の中心に位置し、大阪市内で最も公共交通の利便性の高い地区です。この点を踏まえ、公共交通機関を利用する人の動線を考慮し、近景域に景観調査地点を追加しました。追加した調査地点は、事業計画地北側の梅田新歩道橋上の中央付近であり、現地調査を行うとともに、フォトモンタージュを作成し、予測・評価を行いました。</p>